

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                     |    |             |
|----------------|---------------------|----|-------------|
| ○事業所名          | 放課後等デイサービス にじいるアルファ |    |             |
| ○保護者評価実施期間     | 令和8年 2月 24日         | ～  | 令和8年 3月 23日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)              |    | (回答者数)      |
| ○従業者評価実施期間     | 令和8年 2月 24日         | ～  | 令和8年 3月 23日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)              | 6名 | (回答者数) 6名   |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年 3月 24日         |    |             |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること      | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等   |
|---|---|---|--|
| 1 | 長期的に継続して利用している児童が多く、安心して通える環境と信頼関係が築かれている。      | 日々の関わりを大切に、一人ひとりの特性や成長に応じた支援を継続して行っている。また、保護者との情報共有も意識し、安心して利用できる体制づくりに努めている。 | 継続的な支援の中で得られた情報を職員間で共有し、より個々に応じた支援の質の向上につなげていく。              |
| 2 | 活動内容が固定化せず、子どもが意欲的に参加できる多様な活動を提供できている。          | 職員間で話し合いを行いながら、新しい活動や季節に応じた企画を取り入れている。また、子どもの意見や興味関心を反映した活動づくりを行っている。         | 活動内容の振り返りを行い、参加状況や反応を評価した上で次の活動に生かしていくことで、より効果的な活動の充実を図っていく。 |
| 3 | 子どもが安心して過ごせる十分な活動スペースが確保されており、落ち着いた環境で支援が行えている。 | 子どもの特性や活動内容に応じて空間の使い方を工夫し、安全面や過ごしやすさに配慮した環境設定を行っている。                          | 今後も環境設定の見直しを行いながら、より過ごしやすく、活動しやすい空間づくりに努めていく。                |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等  |
|---|--|---|---|
| 1 | 放課後児童クラブや児童館等の地域資源との関わる機会が少ない。             | ・どの様に機会を創出するかについて十分な話し合いができていない。<br>・現状で行っている地域交流の内容を適切に周知することができていない。                    | ・事前の情報収集や計画的な検討を行い、無理のない範囲で外出や地域資源の活用を取り入れていく。<br>・近隣の公園でのお祭りやイベント、地区センターで行われる音楽祭等への参加や、ごみ拾い等の既に行っているものの他に新しくできることはないか、周知の方法について検討していく。 |
| 2 | ペアレント・トレーニング等、保護者への支援の機会が十分に提供できていない。      | 日々の連絡や送迎時のやり取り、日頃の相談への対応、面談等は行っているもののペアレント・トレーニング等を実施するならばどのような形態で実施するか、需要とニーズを明確化できていない。 | 保護者のニーズを把握しながら、無理のない形で情報提供や助言の機会を設定する。資料配布や個別での声掛け等も取り入れ、保護者支援の充実につなげていく。   |
| 3 | 必要な情報が保護者へ十分に伝わっていない場合がある。                 | 周知方法が口頭中心となっており、伝達手段やタイミングが十分に整理されていない。   | 周知内容を紙面で配布し、視覚的にわかりやすく伝える工夫を行う。また、研修や訓練については年間計画に位置付けた上で、毎月の予定表に記載し周知する。さらに、実施後はLINE等も活用して情報発信を行い、確実に保護者へ伝わる仕組みづくりを行っていく。               |